

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



平成29年度 事業報告書



目次

1 ご挨拶 1

戸倉 新樹 浜松医科大学皮膚科学講座 教授
谷口千津子 浜松医科大学附属病院
女性医師支援センター 特任助教

2 事業について 3

・概要 ・取り組み ・メンバー構成

3 実績報告 5

・大学内診療科、県内医療機関との連携体制構築
・情報発信・収集
・相談窓口の設置（情報収集・提供）
・その他支援（マタニティ白衣のレンタル）

4 メディア掲載 16

5 アクセス・発行について 17

ご挨拶



センター長挨拶

戸倉 新樹

浜松医科大学皮膚科学講座 教授

出産、育児の時期における課題は女性医師にとって人生の選択そのものです。そのため、子育て中の女性医師は長期休職となることが多く、復帰してもパートタイマーとして働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。ふじのくに女性医師支援センターは、その支援を組織化し、効率を挙げ、実質的なものとする目的に向かって邁進しています。

一方では女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあり、浜松医科大学では「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として平成21年～25年にかけて行いました。次いで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として平成25年から27年まで行われ、さらに現在、浜松医大女性医師支援センターは、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産後の女性医師が復帰してもらうことは、静岡県の医療にとっても重要な課題であり、出産後早期の職場復帰を実現させ、非常勤医師の常勤化を促す必要があります。

復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなります。県内のどういう病院がどういう条件で女性医師の復帰を行っているか、また勤務形態は斟酌されているか、と言った情報を、最終的にはウェブシステムで得ることができれば、情報収集のための努力を省略することができます。子育て支援についても、認可保育園などの情報収集と発信、センター内での育児のためのスペースの提供、病児病後時保育の運営など重要な役割を担っています。また病院内外において、情報交換や体験談に基づく講演などを企画しており、その情報や成果も提供しています。また浜松医大附属病院には女性医師支援センターの非常勤医師枠による雇用も稼働し、常勤医員でも活用可能となっています。

何よりも、同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところであり、対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるように種々の活動を行っています。

専任医師挨拶



谷口 千津子

浜松医科大学附属病院

女性医師支援センター 特任助教

静岡県は地理的に東西に広いという特徴を持ち、人口当たりの医師数が全国的にも少ないとされています。そのような背景の中、出産・育児中の女性医師が順調に復職できなければ医師の少ない地域・医療施設では常勤で勤務されている医師の疲弊をもたらす結果ともなりかねません。従って出産・育児期の女性医師が医療現場に復帰するということは女性医師自身の重要な問題であると共に静岡県の医療にとっても重要な課題です。

平成29年4月から開設したふじのくに女性医師支援センターは静岡県内の医療機関に携わるすべての女性医師、県外から県内への移動を考えていらっしゃる女性医師に対して妊娠中・育児期であっても、ご自身の家庭環境に合わせた就業環境を整えていけるような就業に関わる様々な必要な情報をワンストップで提供し、家庭生活を充実させつつキャリアを積んでゆくための支援をしていくことを目指しています。

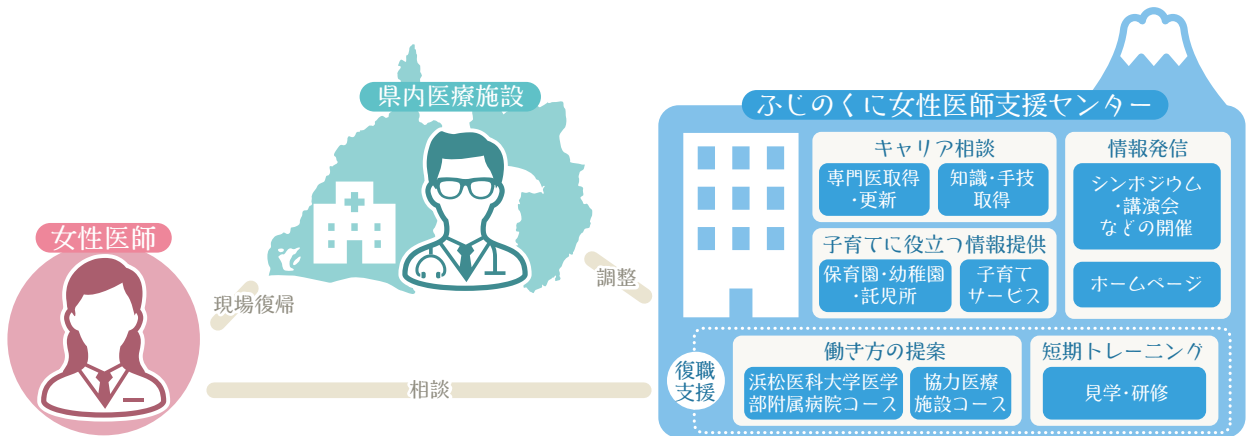
本年度は県内医療施設や浜松医科大学各診療科との連携を確保するための活動を行い、大学診療科講座にご協力いただき、復帰するための道しるべとなる様な就業プログラムを作成しました。また多くの先生方に静岡県内の女性医師支援を知って頂けるようホームページもこの2月に開設の運びとなりました。本年度は県医師会・浜松医科大学と協力して女性医師に関わる活動をしてまいりましたが、地域的に様々な背景がある医療施設との連携を維持する難しさや現場の女性医師にセンターの活動を知って頂き、利用してもらう事の難しさを実感する一方、相談に来られる先生方のお話を伺って、これからのあり方が見えてきた一年となりました。来年度以降もコーディネーターとして自分の体と頭を使って出来るだけ多くの方のお役に立てるような活動を考えていきたいと思っております。

これからも「ふじのくに女性医師支援センター」の活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

事業について

活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



取り組み

キャリアサポート

①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

②復職支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職ができるようサポートします。

- 1) ワーキングコース ■浜松医科大学医学部附属病院コース ■協力医療施設コース
- 2) 短期トレーニングコース ■見学コース ■短期研修コース

③啓発活動

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

- ①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）
- ②マタニティ白衣の無料レンタル

構成メンバー

ふじのくに女性医師支援センター

| 区 分 | 内 容 |
|-------|--|
| 開 設 日 | 平成 29 年 4 月 3 日 (月) |
| 開設場所 | 浜松医科大学医学部附属病院 (病院棟 5 階 503 号室) |
| 組織体制 | センター長 戸倉 新樹 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長) コーディネーター (専任医師) 谷口 千津子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任助教) コーディネーター (専従事務員) 袴田 菜穂子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター) |
| 時 間 | 午前 9 時から午後 5 時まで |

女性医師支援連絡協議会

| 区 分 | 内 容 |
|------|---|
| 目 的 | センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置 |
| 協議委員 | 会長 石田 貴 県健康福祉部医療健康局長 委員 奈良 雅文 県健康福祉部医療健康局技監 委員 角嶋 直美 県立静岡がんセンター内視鏡科医長 委員 野々木 宏 県立総合病院安全衛生監兼集中治療センター長 委員 戸倉 新樹 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長 委員 小林 利彦 県医師会理事 委員 谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任助教 |

実績報告

大学内診療科（研修責任者）、県内医療機関との連携体制構築

大学内診療科

①医局訪問・復職トレーニングプログラム（モデル）作成

子育て中の女性医師が複数在籍する 17 診療科（研修責任者）を訪問し、事業への協力、「女性医師支援担当者（医師）」の配置と復職トレーニングプログラム（モデル）の作成を依頼しました。うち 14 診療科より 42 モデルプログラムの提示がありました。

※復職トレーニングプログラム…出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、専門医取得や専門医としてのキャリア継続支援を目的としてつくられた就業計画書

| 診療科 | 日程 | プログラム数 | 診療科 | 日程 | プログラム数 |
|------|-----------|--------|---------|----------|--------|
| 第一内科 | 5月12日(金) | 3 | 眼科 | 5月23日(火) | 1 |
| 第二内科 | 5月24日(水) | 6 | 耳鼻咽喉科 | 5月31日(水) | 1 |
| 第三内科 | 5月24日(水) | 6 | 放射線科 | 5月2日(火) | 4 |
| 精神科 | 6月7日(水) | 3 | 麻酔科 | 6月14日(水) | 1 |
| 第一外科 | 6月7日(水) | 5 | 産婦人科 | 10月6日(金) | 3 |
| 第二外科 | 6月20日(火) | — | 小児科 | 5月12日(金) | 6 |
| 整形外科 | 5月16日(火) | — | 救急科 | 6月6日(火) | — |
| 皮膚科 | 10月27日(金) | 1 | 形成外科 | 6月6日(火) | 1 |
| 泌尿器科 | 7月25日(火) | 1 | プログラム合計 | | 42 |

②復職トレーニングプログラム運用

平成 29 年度は 2 名の女性医師に対し個々のプログラムを作成し復職支援を行いました。内 1 名は大学女性医師支援枠制度を利用しています。

| 診療科 | 復職者数 |
|------|------|
| 皮膚科 | 1 |
| 産婦人科 | 1 |

③各診療科の対応状況

女性医師支援事業の認知に関しては、今回初めて訪問したことで、女性医師の紹介や相談が前年度に比べ相談件数が増加しました。(平成28年度53件、平成29年度58件)

復職対応については女性医師が少ない診療科の中には大学での復職は対応できない場合があり、県内医療機関(関連病院)との連携が必要となるケースも想定されることが分かりました。全体的には協力的な診療科が多く、今後も引き続き医局訪問を行いながら情報交換と連携体制を強化していくことになりました。

県内医療機関

①訪問・協力依頼

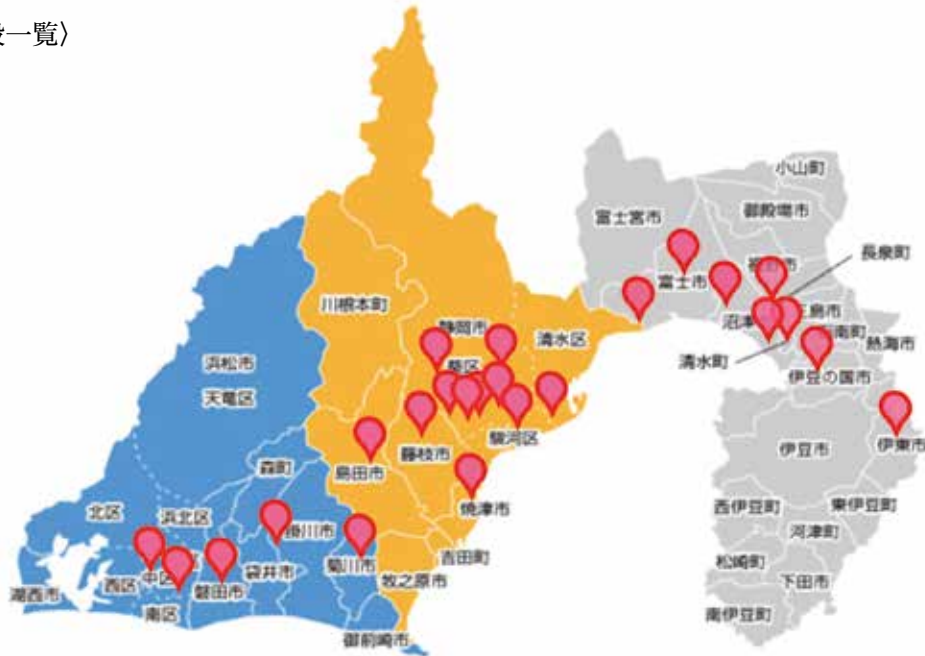
県内の公的医療機関等50施設に女性医師支援担当の配置を依頼し、平成29年8月時点で担当者を配置した24施設を訪問しました。病院長・担当医師・担当事務と面談し下記について依頼しました。

- ・事業への協力(復職支援協力医療施設としてホームページへ登録)
- ・院内の女性医師数等の情報提供
- ・院内での周知活動(チラシの配布・掲示)
- ・担当者を配置している病院については平成30年1月現在、43施設に増え、平成30年度は未訪問の病院を中心に引き続き、訪問を行います。

※復職支援協力医療施設…仕事と家庭の両立に配慮した就業環境を提供する以下の要件を満たす施設

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
- ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
- ◆ 女性医師支援センターホームページに復職支援協力医療施設として登録している。
また、女性医師支援センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能である。

〈訪問施設一覧〉



| 西 部 | 中 部 | | 東 部 |
|-------------|----------------|-----------|----------------|
| 磐田市立総合病院 | 静岡県立こども病院 | 静岡赤十字病院 | 共立蒲原総合病院 |
| 遠州病院 | 静岡厚生病院 | 静岡済生会総合病院 | 富士市立中央病院 |
| 聖隷浜松病院 | 焼津市立総合病院 | 市立島田市民病院 | 国立病院機構静岡医療センター |
| 菊川市立総合病院 | 静岡市立清水病院 | 藤枝市立総合病院 | 沼津市立病院 |
| 中東遠総合医療センター | 静岡県立総合病院 | 静岡市立静岡病院 | 沼津中央病院 |
| | 静岡県立こころの医療センター | | 静岡県立静岡がんセンター |
| | | | 順天堂大学医学部附属静岡病院 |
| | | | 伊東市民病院 |

②各病院の対応状況

静岡県は浜松医科大学だけでなく、他県からの大学派遣の病院も多く、施設によって様々です。その為、病院・診療科によっては対応が難しいケースもあることが分かりました。

また、家族の転勤に伴い、短期間で異動するケースも多くあります。復職希望者の個々の状況に応じた支援が必要となる為、各病院と連携を強化しながらより良い復職プランが提供できるよう取り組んでいきます。

情報発信・収集

◆シンポジウム等の開催支援

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しました。

医学生、医師、病院の管理者の先生方が情報共有できるようなイベントを通して情報発信を行いました。

学生・研修医・女性医師交流会 はまキャリ 2017

| | |
|-----|---------------|
| 日時 | 平成29年7月21日(金) |
| 会場 | 浜松医科大学第二集会室 |
| 参加者 | 医学生等16名、医師8名 |

【概要】

毎年好評の交流会は今年で4回目の開催となりました。話題の多くは家庭との両立についてでしたが、中には女性医師支援センターに婚活パーティーを開催してほしい!との要望もありました。毎年、1時間では短いとの声があるので次回はもう少しゆとりのあるプログラムを考えて行きたいと思います。

ご協力いただいた先生方、本当にありがとうございました。



学生・研修医・医師交流会
はまキャリ 2017

仕事と家庭の両立は大変?!
医師同士の結婚ってどう?
専門医を取ってからどう働く?

自分のキャリアプランを
デザインしてみませんか?
先希ドクターがお答えします!

日時 **7月21日(金)**
15:00~16:00

会場 第2集会室

対象 医学生・研修医・医師

お一人でも友達同士でもパートナーと一緒にでも
大歓迎★
雑談形式でお茶とお菓子をご用意しています。
男性医師も参加します!

申込 締切: 7月14日(金)
担当: 岡田
申込先: 053-435-2500
#dr_infophama.med.ac.jp

主催: 浜松医科大学女性医師支援センター
協賛: 株式会社 ツムラ

【アンケートより】

- ・実際に女性医師の方と直接お話を聞ける機会はなかなかないので、生の声を聞いて良かったです。
- ・周りに医療関係者がいないので将来のイメージが描けず心配でしたが、今回の交流会で少し不安が晴れました。
- ・研修で重要なポイントなども聞けました。
- ・今回話せなかった他の先生のお話も聞いてみたいので、また開催して欲しいです。40分×2とかの席のローテーションがあると面白いと思います。

ロールモデル講演会 ～パートナーと育むワーク・ライフ・シナジー～

| | |
|-----|---------------------------|
| 日時 | 平成29年10月13日(金) |
| 会場 | 浜松医科大学多目的ホール |
| 参加者 | 医学生12名、医師・教員 27名、その他5名 |

【概要】

今年も44名と多くの方にご参加頂きました。「パートナーと育むワーク・ライフ・シナジー」をテーマに、お互いにどのように協力して毎日を過ごしているか、どんなことが課題なのかをお話し頂きました。

伊藤泰介先生のご講演では、日頃から奥様とのコミュニケーションを大切にされているお話や、男性が家事や育児にも積極的に取り組むためには「女子はまずは男子がやったことを評価しつつ、軌道修正を行っていく」ことが大切であると話し頂きました。

向麻利先生のご講演では、お子様が生まれてから夫婦喧嘩が100倍になったものの、お互いに尊重し合って、仕事も家庭も大切にされていることや、これからライフイベントを迎える方に「自分の中の正直な気持ちにまっすぐ向き合っ、それを大事にしてください」とメッセージを送られました。

藤澤朋幸先生のご講演では、「自分にとってワークやライフがどのような存在なのかを振り返り、考えてみることで、また、5年後10年後は自分がどうありたいのか、具体的な目標を立てつつ定期的に見直すことが大切である。ワークにもライフにも責任をもつことが、どんな形であれ“シナジー効果”に繋がっている。」とお話し頂きました。

今回は医学生だけでなく、医師の方にも多く参加頂きました。また毎年参加して下さる方もおります。この講演会が様々な立場の方の参考となれば幸いです。ご講演頂いた先生方、本当にありがとうございました。



プログラム

1. 開会の挨拶 戸田 勲樹 (女性医師支援センター センター長)
2. 静岡医歯総合協会の紹介 小林 利彦 (静岡医歯総合協会 理事)
3. 講演会
 - (1) 育児世代における同居パートナーとの男女共同参画 伊藤 泰介 (浜松医科大学医学部附属病院 産科 副院長)
 - (2) こどもがいて働けるか、心配ですか? ～これから働くひとに伝えたいこと～ 向 麻利 (浜松医科大学医学部附属病院 産科 産科センター 首席)
 - (3) 私の「ワーク・ライフ・シナジー」 藤澤 朋幸 (浜松医科大学 内科学第二講座 助教)
4. 座談会 座長 山口 千津子 (女性医師支援センター 特任助教) 小宮 謙之 (浜松医科大学 乳癌外科 病院講師)
5. 閉会の挨拶 安田 日出夫 (女性医師支援センター 副センター長)

申込 & 問い合わせ

氏名・所属を不明はの上、下記までご連絡ください。
 浜松医科大学 女性医師支援センター 事務局
 TEL & FAX 053-435-2380
 E-mail dr_info@hama.med.ac.jp
 無料駐車場あり。当日は、受付係が案内いたします。
 本会では、障がい者の方の参加を歓迎いたします。

主催 浜松医科大学 女性医師支援センター
 共催 静岡医歯総合協会、ふじのくに女性医師支援センター

【アンケートより】

- ・講演会に参加すると毎回モチベーションがUPします。育児も仕事も目標を持って頑張ろうと思いました。色々な先生方の考え方・毎日の過ごし方をお聞き出来ていつも楽しみに聴いています。
- ・他の家庭のタイムテーブルは知る機会がないので参考になりました。
- ・一般企業の取組も知りたいです。

キャリア支援シンポジウム『医師のキャリアパスとワーク・ライフ・バランス』

| | |
|-----|-----------------|
| 日時 | 平成30年1月27日(土) |
| 会場 | ホテルアソシア静岡 3F「橘」 |
| 参加者 | 医師29名、事務12名 |

【概要】

静岡市にてキャリア支援シンポジウムを開催しました。

福井県済生会病院 里見裕之先生の特別講演では「情けは人のためならず（意味：人に情けを掛けておくと巡りめぐって自分に返ってくる）」をキーワードに夫・父・同僚・上司それぞれの目線での経験をご講演頂きました。奥様も医師であり、職場では女性医師の多い環境の中、どの立場であっても相手を尊重し、信頼する姿勢を大切にすれば相乗効果が生まれ、より良い環境作りに繋がっていくというお話は大変参考になりました。

基調講演では東部・中部・西部の各地域から管理者の先生に取り組みをご講演頂きました。

富士市立中央病院は院内アンケートにおいて勤務状態の満足度に注目し、平成25年度：全体36.1%の結果を受け、医療職確保や医療秘書の採用等を行い休暇の取りやすい環境作りに取り組みました。結果、平成29年のアンケートでは54.8%にまで上昇したそうです。

静岡済生会総合病院では保育所・病児病後児保育だけでなく学童保育も行っており、非常に先進的な育児支援を行っていました。また、地域に開放することで、運用面でも参考になる取り組みでした。

菊川市立総合病院ではキャリアパスの視点から現在行っている家庭医養成プログラムについて、充実した研修内容や多様な働き方について現場の女性医師のメッセージを交えながらご紹介頂きました。

管理者・勤務医・事務・子育てしている方等、様々な立場の方41名にご参加頂きました。また、託児利用も11名と子育て中の先生方にもご参加頂けて大変嬉しく思います。今後も県内医療施設で働く方々が繋がれるよう、より良い会にしていきたいと思っております。ご講演頂きました先生方、本当にありがとうございました。

【アンケートより】

- ・女性医師という枠組みでなく、男性医師、医師としてのキャリアパスを考えることが大事だと思います。各学会での取り組み体制についても知りたいです。
- ・WLBについて、事務の立場からできること、可能性について考えることができました。自治体病院という中で厳しい部分もありますが、職種を超えたコミュニケーションを大切にしていきたいと改めて思いました。

キャリア支援シンポジウム
平成30年1月27日(土)
14:30~16:45
入場無料
無料託児有り(要申込)
締切日:1月19日

医師のキャリアパスと
ワーク・ライフ・バランス

特別講演
情けは人のためならず
産婦人科医師が
子育てと研修医教育から
見えてきたもの
講演者 里見 裕之 先生
福井県済生会病院
産婦人科 医師

基調講演(伊内の医師紹介)
[東部] 富士市立中央病院 院長 橋本 秀幸 先生
[中部] 静岡済生会総合病院 副院長 石山 誠三 先生
[西部] 菊川市立総合病院 病院長 村田 義之 先生

パネルディスカッション
「働き方改革と女性医師の活躍を促している企業家と女性
医師からワーク・ライフ・バランスを推進し活動に取り組んでいる
県内医療施設の先生方からご講演頂き、意見交換を行います。」

会場 ホテルアソシア静岡
15階 ベラビスタ
静岡県静岡市葵区黒金町56

対象 医療施設の管理者
勤務医 事務職員

申込み先
所属・氏名や下記の連絡先までお知らせください。
また、託児を希望される方は、その旨をお伝えください。
尚敬医療系女性医師支援センター事務局
Tel/Fax: 053-430-2380
Email: drinfo@hara-med.ac.jp



◆ホームページの開設

【概要】

静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを公開しました。医師としてのキャリア形成や仕事と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できることで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。



<https://www.fujinokuni-w.jp/>

【特徴】

①県内医療機関・地域の育児支援情報をまとめて提供

女性医師が仕事と家庭を両立するために必要な医療施設の情報や地域の育児支援情報をまとめて掲載し、自身の家庭環境に応じた就業情報が閲覧できます。

医療施設の育児支援情報

掲載されている情報につきましては、県内全ての医療施設を対象に平成28年度に行ったアンケート調査に基づいて掲載しています。修正箇所や新たに掲載希望の施設は掲載情報をメールにてお知らせください。

| 施設名 | 所在地 | 定員 | 受入れ年齢 | 基本保育時間 | 休所日 | 時間外 | | 病児保育 | 病後児保育 | 子育て | | |
|-------------|--------|----|-----------|------------|------------|-----|----|------|-------|-----|----|---|
| | | | | | | 早朝 | 夜間 | | | 長期 | 常時 | |
| 下田メディカルセンター | きんめ保育園 | 10 | 生後2ヶ月～就学前 | 8:00～17:30 | 日・祝(日は月2回) | × | ○ | ○ | ○ | × | × | × |

地方自治体の育児支援情報

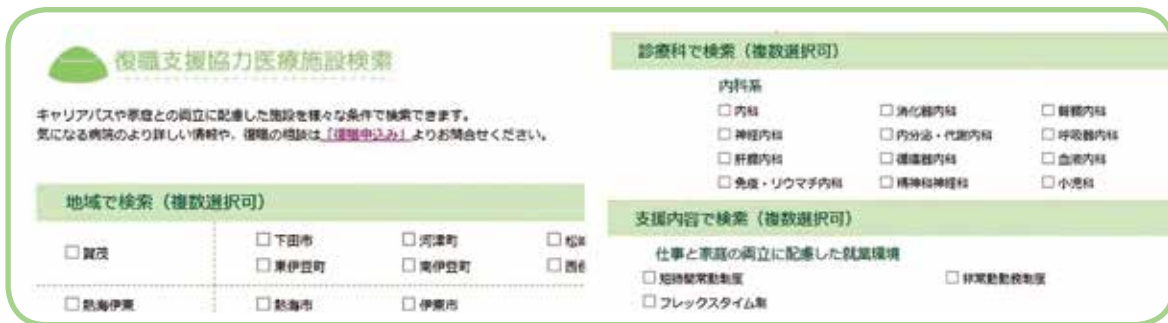
地方自治体の子育て支援をご紹介します。申込み・問い合わせは各担当施設へお問合せください。一部、ホームページの設置がない施設があります。

地域を選択してください。

| 地域 | 市町村 | ファミリー・サポート | 保育園 | 病児 | 病後児 | 子育て |
|-----|-----|------------|-----|----|-----|-----|
| 下田市 | 下田市 | ● | ● | ● | - | ● |
| | 河津町 | - | ● | - | - | ● |
| | 松崎町 | - | ● | - | - | ● |
| 賀茂郡 | 賀茂郡 | ● | ● | - | - | ● |
| | 賀茂郡 | ● | ● | - | - | ● |

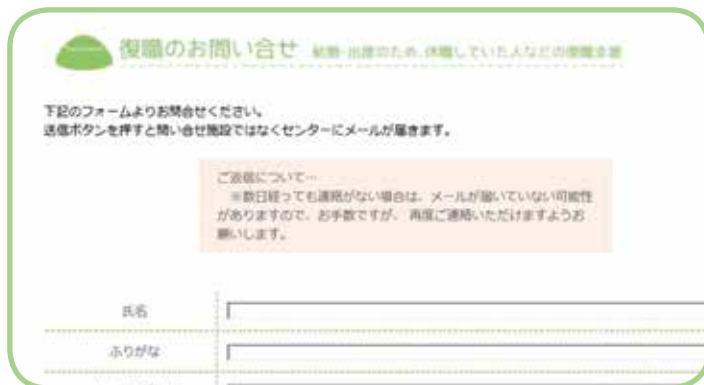
②復職協力医療機関の検索

仕事と家庭の両立に配慮した就業環境を提供する県内医療機関を「復職支援協力医療機関」とし、これらの情報を地域別、診療科別に検索できます。ふじのくに女性医師支援センターを介して就業に関する詳細情報も提供しています。



③メールによるキャリアサポート

出産、育児などのライフイベントにより、医師としてのキャリア継続に支援を必要とする方のメール相談を行います。



④ロールモデル紹介

県内医療機関で実際に仕事と家庭を両立している医師の活動を紹介しています。現在子育て中の医師やこれから医師を目指している学生などが県内で活躍している先輩女性医師の実際を閲覧することで自分のキャリアや働き方を見直すきっかけとなり、延いては県内の臨床現場定着に繋がることを期待しています。



相談窓口の設置（情報収集・提供）

出産・育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

| | |
|------|----------------------------|
| 対応者 | コーディネーター2名（専任医師1名、専従事務員1名） |
| 開設日時 | 平日9時から17時まで |

①相談件数内訳

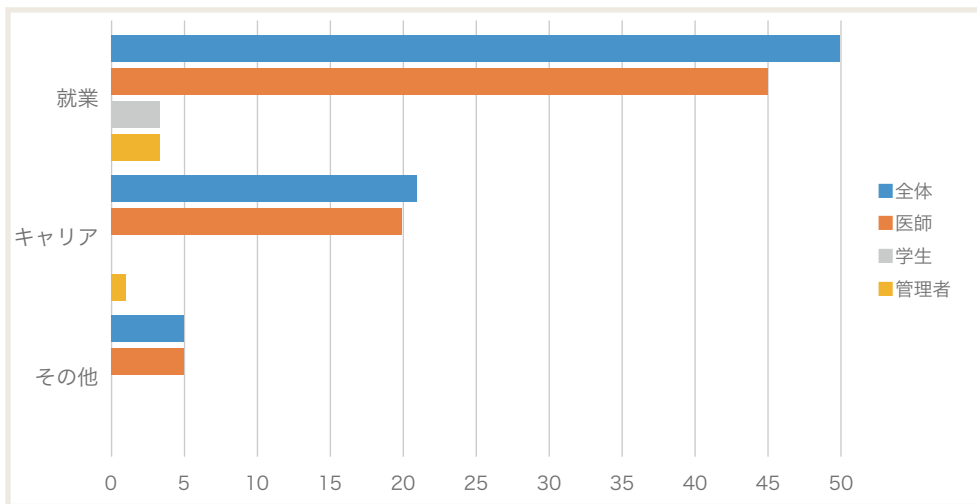
相談者数 31名（医師26名、学生2名、管理者3名）

| 区分 | 診療科 | 医師 | | | | 学生 | | 管理者 |
|--------|--------|--------|------------|-------------|---------|-----|-----|-----|
| | | 卒後5年未満 | 卒後5年～10年未満 | 卒後10年～15年未満 | 卒後15年以上 | 2年生 | 5年生 | |
| 医師 | 内科 | | 1 | 4 | 3 | | | |
| | 小児科 | | 2 | | 4 | | | |
| | 皮膚科 | | 5 | | | | | |
| | 放射線科 | | 3 | | | | | |
| | 病理診断科 | 3 | | | | | | |
| | 外科 | | 2 | 1 | | | | |
| | 眼科 | | | 1 | | | | |
| | 耳鼻咽喉科 | | | | | | | |
| | 産婦人科 | | 17 | 4 | | | | |
| | 麻酔科 | | | | | | | |
| 形成外科 | | 2 | | | | | | |
| 学生 | | | | | | 1 | 2 | |
| 管理者 | 伊東市民病院 | | | | | | | 1 |
| | 浜松医科大学 | | | | | | | 2 |
| 合計 58件 | | 3 | 32 | 10 | 7 | 1 | 2 | 3 |

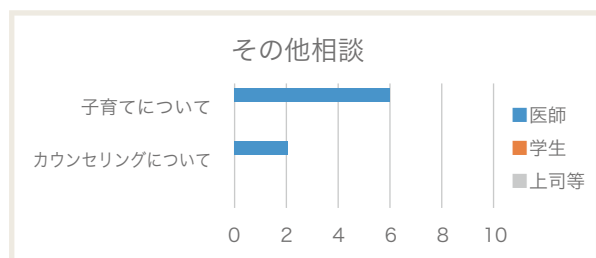
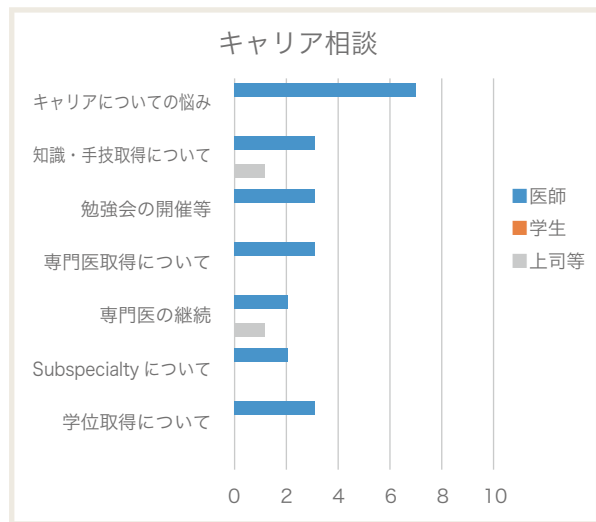
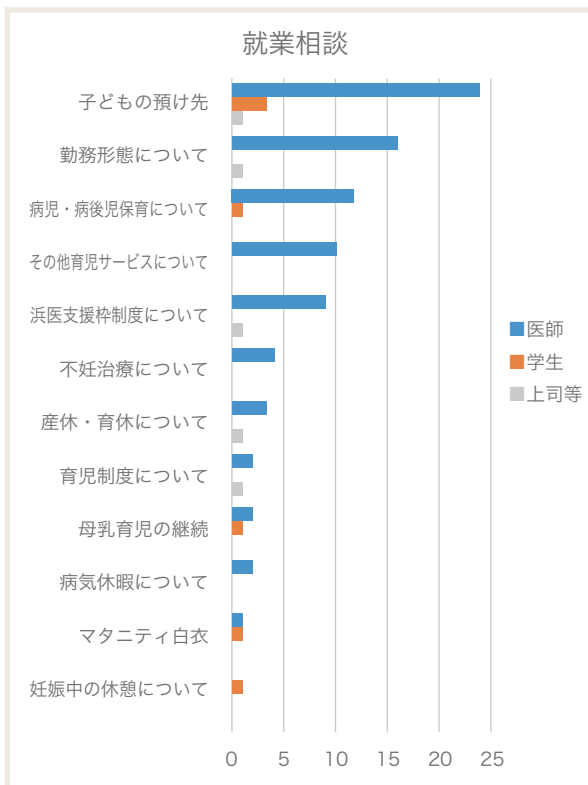
②相談方法別内訳

| 区分 | 窓口 | 電話 | メール | 計 |
|-----|----|----|-----|----|
| 医師 | 37 | 2 | 13 | 52 |
| 学生 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 管理者 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 計 | 41 | 3 | 14 | 58 |

③相談項目（※1回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



④相談内容内訳



メディア掲載

静岡新聞 平成29年6月8日

▼センター開設とコーディネーター配置について

女性医師の復職後押し



女性医師の相談に応じるコーディネーターの谷口千津子医師
＝6日午後、浜松市東区の浜松医科大学付属病院

社会での経験や、育児や仕事の両立に関する悩みを乗り越え、再び医師としてのキャリアをスタートさせる女性医師の増加を支援する「ふじのくに女性医師支援センター」が、本格的に活動を始める。支援センターは、医師の復職を後押しする。支援センターは、医師の復職を後押しする。支援センターは、医師の復職を後押しする。

医療機関の情報網確立

県内唯一の医師育成機関の浜松医科大学付属病院（浜松市東区）は、先行して女性医師支援センターを導入している。5月から子育て中の女性医師向けの支援体制を敷いた。最近はその小学校入学後も常駐で

浜松大病院 時短、研修でキャリア維持

「医師数の少ない」県東部の病院にどう対応させるか。センターを拠点に連携のためのネットワーク作りを進めたいと語り、同大の仕組みがモデルケースとして普及することに期待する。問い合わせは同センターへ053(435)2380へ

毎日新聞 平成29年6月19日

センター開設とコーディネーター配置について

▼ター配置について



女性医師 復職を支援

「子育て中の女性医師のキャリアアップを支援する」を目的とした「ふじのくに女性医師支援センター」が、本格的に活動を始める。支援センターは、医師の復職を後押しする。支援センターは、医師の復職を後押しする。

県内全域でキャリア断絶防く

「子育て中の女性医師のキャリアアップを支援する」を目的とした「ふじのくに女性医師支援センター」が、本格的に活動を始める。支援センターは、医師の復職を後押しする。支援センターは、医師の復職を後押しする。

女性医師支援に力



「医師数の少ない」県東部の病院にどう対応させるか。センターを拠点に連携のためのネットワーク作りを進めたいと語り、同大の仕組みがモデルケースとして普及することに期待する。問い合わせは同センターへ053(435)2380へ

浜松医大に相談センター 復職など後押し

「医師数の少ない」県東部の病院にどう対応させるか。センターを拠点に連携のためのネットワーク作りを進めたいと語り、同大の仕組みがモデルケースとして普及することに期待する。問い合わせは同センターへ053(435)2380へ

中日新聞 平成29年6月9日
▼センター開所式の様子と事業についての紹介について

▶静岡新聞 平成29年8月24日
専任医師の紹介について

ふじのくに女性医師支援センター専任医師を務める

谷口 千津子 さん (浜松市)

この人

「医師としてのキャリアを維持し、子育てを両立させる」を目的とした「ふじのくに女性医師支援センター」が、本格的に活動を始める。支援センターは、医師の復職を後押しする。支援センターは、医師の復職を後押しする。

アクセス・発行について



平成29年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書

発行 印刷日 3月23日

発行 3月30日

発行所 ふじのくに女性医師支援センター

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター内

電話/FAX 053-435-2380

E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

URL <https://www.fujinokuni-w.jp/>

編集 センター長 戸倉新樹

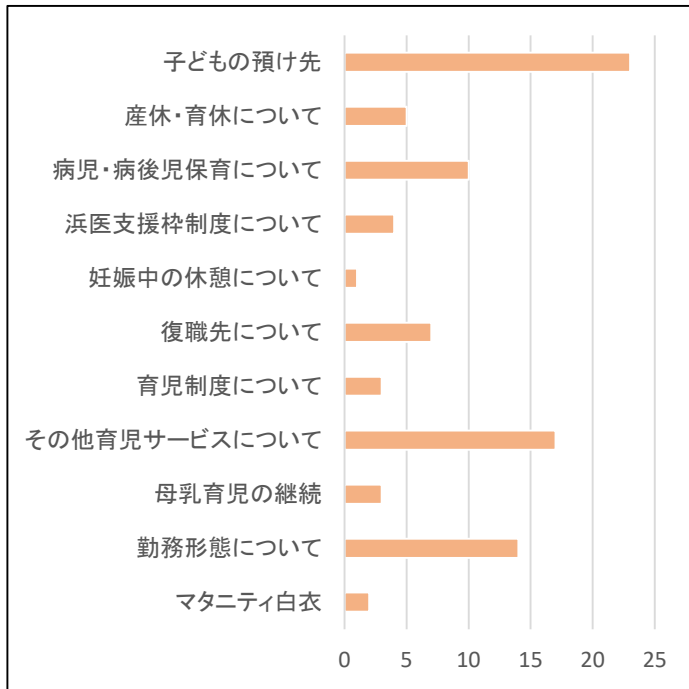
コーディネーター（医師）谷口千津子

コーディネーター（事務）袴田菜穂子

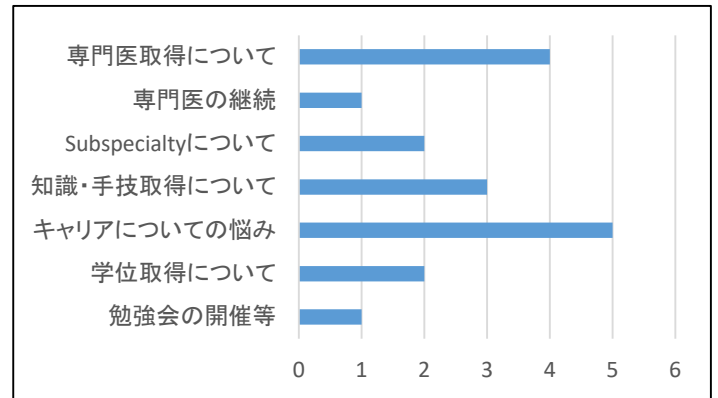
ふじのくに女性医師支援センター平成30年度上半期 活動報告

■相談支援(23名より、相談回数35回)

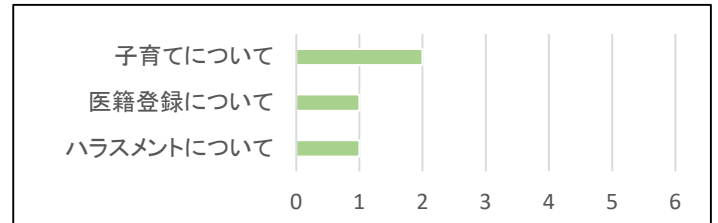
就業相談 89件



キャリア相談 18件



その他相談 4件



■浜松医科大学医局訪問

平成30年10月現在、9診療科を訪問。新規で脳神経外科・整形外科・リハビリテーション科より3プログラムが追加された。

■県内医療機関訪問

平成30年10月現在、13病院を訪問。昨年度の活動報告を行い、開設したホームページへの登録依頼を行った。

■支援医師数

| | |
|------------------|----|
| 平成29年度からの継続支援対象者 | 2名 |
| 平成30年度新規支援対象者 | 3名 |

■順天堂大学医学部附属静岡病院との連携

東部地域において女性医師支援の充実を図るため若手医師が多く在籍する順天堂大学静岡病院にて女性医師3名と座談会を行った。座談会の様子は順天堂大学静岡病院の広報誌にて掲載され、県内医療機関に配布される予定。



■学生講義

日時：7月6日(金)

対象：医学生6年生 109名

演題：ライフイベントをプラスに変える！

～働く側・支える側、それぞれのメリット～



■イベント報告

学生・研修医・女性医師交流会
はまキャリア2018

学生・研修医・医師交流会
はまキャリア2018

仕事と家庭の両立は大変?!
医師同士の結婚ってどう?
専門医を取ってからどう働く?

自分のキャリアプランを
デザインしてみませんか?
先輩ドクターがお答えします!

Life street
Career street

日時 **7月27日(金)**
14:45~16:10

会場 浜松医科大学 看護学科棟2F
中講義室

対象 医学生・研修医・医師

お一人でも友達同士でもパートナーと一緒にでも
大歓迎★
筆談形式でお茶とお菓子をご用意しています。
男性医師も参加します!

締切: 7月20日(金)
担当: 柿田
申込先: 053-435-2380
*dr-info@hama-med.ac.jp

主催: 浜松医科大学女性医師支援センター
ふじのくに女性医師支援センター

参加者: 29名
【学生16名、医師13名】

ロールモデル講演会
「みんなで考えるワーク・ライフ・デザイン」

ロールモデル講演会
～みんなで考えるワーク・ライフ・デザイン～

2018. 9. 28(金) 17:00~18:30

会場 浜松医科大学医学部附属病院多目的ホール

プログラム

- 開会の挨拶・静岡県医師会の紹介 小林 利彦(静岡県医師会 理事)
- 講演会
 - 1) 自利利他 牧野 洋(浜松医科大学 麻酔・蘇生学講座 講師)
 - 2) 私のライフマネジメント『今しかできない事をやる』 細川 久美子(浜松医科大学 耳鼻咽喉科 医師)
 - 3) 『三男二女と夫とメス』～多子母 産後、整形外科医の働き方。 鈴木 希央(藤枝市立総合病院 整形外科 医長)
- 座談会 座長 藤澤 幸子(浜松医科大学 小児科 講師)
小倉 廣之(浜松医科大学 乳癌外科 病院講師)
- 閉会の挨拶 戸倉 新樹(女性医師支援センター センター長)

申込/お問合せ
氏名・所属をご明記の上、下記までご連絡ください。
当日はお弁当をご用意しています。
無料託児あります。ご希望の方は申込み時にお知らせください。(託児締切9/21)

TEL&FAX 053-435-2380
E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

共催 静岡県医師会・浜松医科大学女性医師支援センター
ふじのくに女性医師支援センター

参加者: 45名
【学生18名、医師25名、医師会2名、その他4名】

初期臨床研修医を対象とした 『第1回 屋根瓦塾 in Shizuoka 2018』の 開催について

平成30年8月26日(日)9時30分より、聖隷浜松病院（医局管理棟4階のシミュレーションラボ、会議室、計6ブース）において、初期臨床研修医を対象とした『屋根瓦塾 in Shizuoka 2018』を開催した。

本年度の第1回となる『屋根瓦塾』には県内の初期研修医30名が参加、約60名のインストラクターほか関係者の指導のもと、盛会裏に研修会を終了した。

プログラムは、冒頭に、司会進行役を務める小林利彦理事より開会挨拶が行われ、続いて、計6ブースのリーダーを務めるインストラクターの紹介が行われた後に、研修を開始した。

はじめに、今回のイベントリーダーである聖隷浜松病院救命救急センター 渥美生弘先生によるアイスブレイキングがおこなわれ、5チームに分かれた受講者が他己紹介の後に、ブースラウンドした。

今回の6ブースのテーマ、ならびにブースリーダーは次のとおり。

| | テーマ | ブースリーダー（※敬称略） | |
|---|--------------|---|-------|
| A | 外傷チームを作ろう!! | 浜松医科大学 医学部附属病院 救急部 助教 | 高橋 善明 |
| B | 妊婦のけいれん | 浜松医療センター 産婦人科 周産期・メディカルパスセンター 副センター長 兼 医長 | 芹沢麻里子 |
| C | 小児 | 聖隷三方原病院 救急科 医長 | 志賀 一博 |
| D | 心エコー | 浜松医科大学 医学部附属病院 救急部 講師 | 齊藤 岳児 |
| E | 救急エコー（POCUS） | 聖隷浜松病院 救急科 | 土手 尚 |
| F | C V C | 浜松医科大学 医学部附属病院 集中治療部 副部長 兼 講師 | 御室総一郎 |

ブースラウンド終了後には、各ブースリーダーからの講評および優秀チームの表彰が行われた後、修了証の授与が行われた。また、研修会後には、会場を変えて懇親会が開催され、受講者とインストラクター等が交流を深めた。

次回、第2回『屋根瓦塾』は平成31年2月に静岡県立総合病院の協力を得て開催する予定。

今回、会場提供等、多大なご協力をいただいた聖隷浜松病院の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（地域医療部主任理事 小林利彦）

※先月号（2018年10月号）より連載を開始したコーナー「屋根瓦塾 in Shizuoka」につきましても、是非ともご覧ください。10月号では「屋根瓦塾 in Shizuokaの起ち上げに向けた想い（小林理事）」を掲載しています。

▽Aブース「外傷チームを作ろう！」



▽Bブース「妊婦のけいれん」



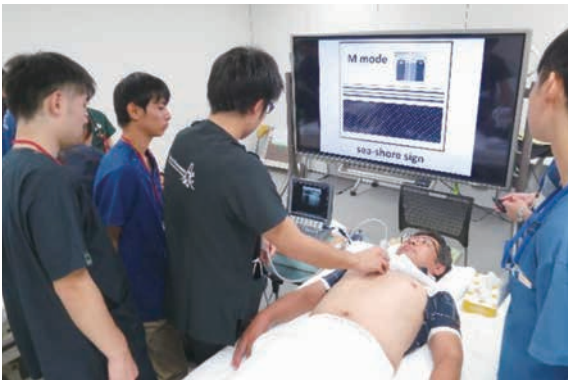
▽Cブース「小児救急」



▽Dブース「心エコー」



▽Eブース「救急エコー」



▽Fブース「CVC」



▽講評する渥美イベントリーダー



▽修了証の授与



▽集合写真



平成 30 年度 静岡県医師会 地域保健医療研修会

(平成 30 年度 静岡県医師会 医療政策研究会)

平成 30 年 10 月 6 日(土) 15:00 ~
於 ホテルアソシア静岡 3 階「葵」

司会進行 静岡県医師会 理事 小林 利彦

1 挨拶 静岡県医師会 副会長 徳永 宏司

2 基調講演 (15:10~15:55)

「医師の働き方改革について」

厚生労働省 医師の働き方改革検討委員会 構成員 福島 通子 先生
塩原公認会計士事務所 特定社会保険労務士

3 シンポジウム (16:00~17:40)

テーマ 「勤務医の負担軽減に向けた取り組みについて

～タスクシフトやタスクシェアを含む医師の働き方への提言～」

(1) 取り組み報告 (各 10 分ほど)

- ・静岡県医師会 小林 利彦 理事 (勤務医対策担当)
- ・静岡県健康福祉部 石田 貴 医療健康局長
(ふじのくに医療勤務環境改善支援センター センター長)
- ・静岡県病院協会 毛利 博 会長
- ・静岡県看護協会 渡邊 昌子 会長
- ・浜松医科大学 井上 真智子 地域家庭医療学講座 特任教授

～休憩 (会場準備) 10 分～

(2) 意見交換および質疑応答 (30 分)

※ 上記 5 名と基調講演講師による

4 閉会

日医生涯教育 2.5 単位 CC : 6 (1.0 単位)、7 (0.5 単位)、10 (1.0 単位)

平成30年度 静岡県医師会 勤務医委員会、 ワークライフバランスワーキンググループ合同協議会

平成31年1月10日（木）18:00～19:30

於 ホテルセンチュリー静岡5階「サルビア」

司会進行 静岡県医師会理事 小林 利彦

1 挨拶 静岡県医師会副会長 徳永 宏司

2 話題提供

(1) 厚生労働省 医師の働き方改革に関する検討会における「とりまとめ（案）」骨子について（20分間）

厚生労働省 医師の働き方改革に関する検討会 構成員 福島 通子 先生
特定社会保険労務士 塩原公認会計士事務所

(2) ふじのくに女性医師支援センターの活動状況について（10分間）

ふじのくに女性医師支援センター コーディネーター・専任医師 谷口 千津子 先生
浜松医科大学 女性医師支援センター 特任助教

3 意見交換 「医師の働き方改革について」（45分間）

4 連絡事項

(1) 屋根瓦塾 in Shizuoka2018（中部）の開催計画について

(2) その他

シンポジウム

「勤務医の負担軽減に向けた取り組みについて」
～タスクシフトやタスクシェアを含む医師の働き方への提言～

静岡県医師会

小林利彦

tokoba@hama-med.ac.jp

2018/10/06 ホテルアソシア静岡3階

「医師の働き方改革」に関する疑問

1) Goalは何なのか？

- ・ 医師の健康問題・・・◎
- ・ 医師の活動時間管理（制限）・・・△
救急外来の制限を評価・・・×

2) Approachに関して

- ・ 36協定の再確認・・・○
福利厚生強化・雇用環境の柔軟性・・・◎
- ・ 労働時間と自己研鑽時間の区分け・・・○
労働時間≠施設内滞在時間
タイムカード（ICチップ） ↑ …△
- ・ 医師の専門性強化≠労働時間延長・・・○
→タスクシフト＋チーム医療(スタッフのスキル強化)

| | 前回H21年 (n=3,879) | 今回H27年 (n=3,166) | 差 |
|--------------------------|---------------------|---------------------|--------|
| ■ 勤務状況 | | | |
| 8) 最近1ヶ月間で休日なし | 8.7% | 5.9% | -2.8% |
| 9) 自宅待機・オンコールが月8日以上 | 20.1% | 17.9% | -2.2% |
| 10) 平均睡眠時間5時間未満(当直日以外) | 8.6% | 9.1% | +0.5% |
| 11) 当直回数が月4回以上 | 26.4% | 22.5% | -3.9% |
| 11a) 当直日の平均睡眠時間4時間以下 | 49.8% | 39.3% | -10.5% |
| 12) 半年以内に不当なクレームを経験 | 45.9% | 37.0% | -8.9% |
| ■ 健康状況 | | | |
| 13) 主観的健康観(健康でない・不健康) | 21.5% | 20.1% | -1.4% |
| 14) 他の医師への健康相談あり | 45.9% | 55.1% | +9.2% |
| 29) 自殺や死を毎週/毎日具体的に考える | 5.7% | 3.6% | -2.1% |
| 18-33) 抑うつ症状尺度QIDS 中等度以上 | 8.7% | 6.5% | -2.2% |
| 18-33) 抑うつ症状尺度QIDS 重度以上 | 1.9% | 1.1% | -0.8% |

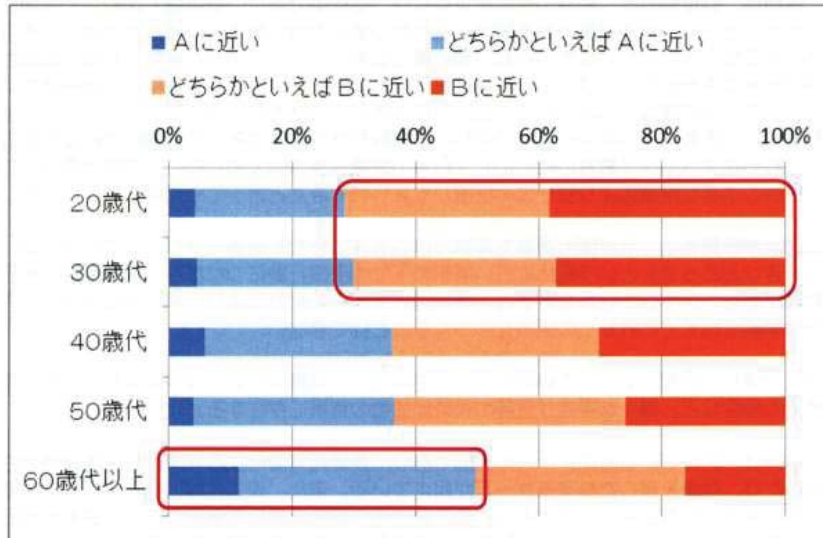
勤務環境は改善傾向。他の医師に健康問題を相談する者が増加。
主観的健康観には変化はほとんど見られず、うつ症状、自殺リスク高い者も未だあり
勤務医の健康支援に関する検討委員会答申3p

3) 勤務医と行政・医師会等との想いのギャップ？

- ・ 医師は「キャリアパス」と「ワークライフバランス」充実の同時達成を目指したい
(成長したい、日々の生活もエンジョイしたい)
- ・ 「地域偏在・診療科偏在」問題→地域のヘルスケア提供体制は維持したい
(人口当たり医師数？ 地域住民の健康指標？)
- ・ 診療報酬制度・地域医療構想⇔病院経営
⇔ 勤務場所・診療科選択の自由
(「奨学金」等でどこまで対応できるのか？)

勤務環境改善に関する認識（医師・年齢別）

A：医師には、特別の使命があるのだから厳しい勤務環境にあるのはやむを得ない
 B：医師不足という現状においても、勤務環境は工夫次第で改善しうるし、改善すべき



出典：「勤務医の就労実態と意識に関する調査」（平成24年9月、（独）労働政策研究・研修機構）
 平成23年12月に全国の20床以上の病院に勤めている24歳以上の医師を対象（医院・クリニックの院長は除外）にインターネットを用いてアンケート調査を実施した。有効回収数3,467。



「働き方改革」関連法案の概要

| | 内容 | 施行時期 | メリット | |
|---|------------------|-------------------------------------|------|-----|
| | | | 企業 | 労働者 |
| ★ | 残業時間の上限規制 | 大企業 2019年4月 中小企業 20年4月 | △ | ○ |
| | 有休取得の義務化 | 19年4月 | △ | ○ |
| ★ | 勤務間インターバル制度 | 19年4月 | △ | ○ |
| | 割増賃金率の猶予措置廃止 | 中小企業 23年4月 | △ | ○ |
| | 産業医の機能強化 | 19年4月 | △ | ○ |
| | 同一労働同一賃金 | 大企業 20年4月 中小企業 21年4月 | △ | ○ |
| | 高度プロフェッショナル制度の創設 | 19年4月 | ○ | △ |
| | 裁量労働制の対象範囲拡大 | 企画業務型裁量労働制の対象業務に「課題解決型の開発提案業務」などを追加 | ○ | △ |

法案から削除

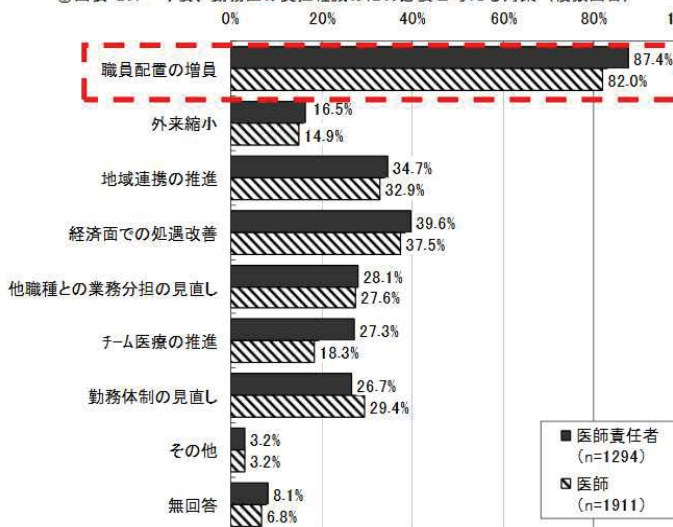
某アンケート調査（分析途中）

- ① 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担の具体的内容 36/36=100%
- ② 勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施 27/36=75%
- ③ 前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の
休息時間の確保（勤務間インターバル） 5/36=14%
- ④ 予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮 17/36=47%
- ⑤ 当直翌日の業務内容に対する配慮 16/36=44%
- ⑥ 交替勤務制・複数主治医制の実施 24/36=67%
- ⑦ 育児・介護休業法（第23条第1項～）の規定による
措置を活用した短時間正規雇用医師の活用 25/36=69%

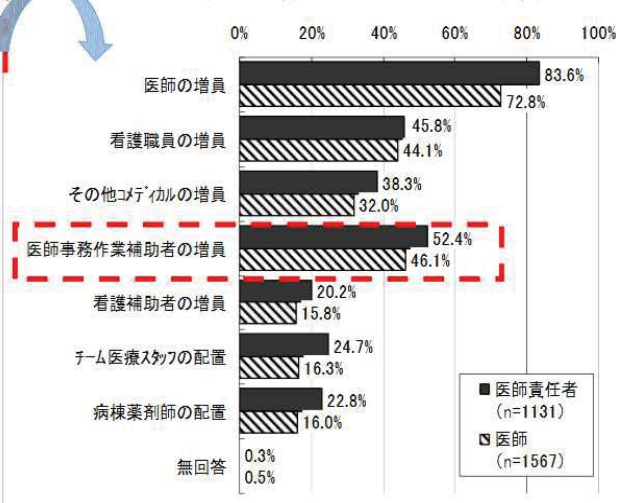
今後、勤務医の負担軽減のため必要と考える対策 ＜医師責任者・医師＞

医師調査

図表 287 今後、勤務医の負担軽減のため必要と考える対策（複数回答）



図表 288 今後、勤務医の負担軽減のため必要と考える対策として増員が必要な職種（「職員配置の増員」が必要と回答した医師、複数回答）



今後、勤務医の負担軽減のため必要と考える対策として、「職員配置の増員」を回答する医師が最も多く、そのうち、医師・看護職員の増員以外では、医師事務作業補助者の増員が必要と回答する者が最も多く約50%みられた。

【出典】平成24年度 診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（H25年度調査）
「病棟勤務医等の負担軽減及び処遇の改善についての状況調査」（速報）

チーム医療の推進について (チーム医療の推進に関する検討会報告書)
[2010年3月19日 厚生労働省] から

(8) 事務職員等 (医療クラーク等)

書類作成等(診断書、意見書、紹介状の作成等)に関する業務量の増加により、医師・看護師の負担が増加しており、一方で、患者側では書類作成までの時間が長期化していることなどへの不満が増大していることから、**医療関係事務に関する処理能力の高い事務職員(医療クラーク)を積極的に導入し、医師等の負担軽減を図るとともに、患者・家族へのサービス向上を推進する必要がある。**

こうした観点から、例えば、**医療クラークの量の確保 (必要養成数の把握等)、医療クラークの質の確保 (認定・検定制度の導入等)、医療機関における医療クラークの導入支援 (院内研修ガイドラインの作成) 等、導入の推進に向けた取組を実施すべきである。**

2008年診療報酬改定「医師事務作業補助体制加算」

医師 (歯科医師を含む) の指示の下に

- 1) 診断書などの文書作成補助
- 2) 診療記録への代行入力
- 3) 医療の質の向上に資する事務作業

(診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等)

- 4) 行政上の業務

(救急医療情報システムへの入力、感染症サーベイランス事業に係る入力等)

医師以外の職種の指示の下に行う業務、診療報酬の請求事務、窓口・受付業務、医療機関の経営、運営のためのデータ収集業務、看護業務の補助並びに物品運搬業務等については不可

1 医師の労働時間管理の適正化に向けた取組

労働時間短縮に向けた取組を行う上では実態を把握することが重要であることから、まずは医師の在院時間について、客観的な把握を行う。ICカード、タイムカード等が導入されていない場合でも、出退勤時間の記録を上司が確認する等、在院時間を的確に把握する。

2 36協定等の自己点検

36協定の定めなく、また、36協定に定める時間数を超えて時間外労働をさせていないかを確認する。また、医師を含む自機関の医療従事者とともに、36協定で定める時間外労働時間数について自己点検を行い、業務の必要性を踏まえ、長時間労働とならないよう、必要に応じて見直しを行う。自己点検に当たっては、診療科ごとの実態の違いを考慮した複数の定めとする対応も検討する。あわせて、就業規則等の労働関係法令上作成が求められる書類についても各医療機関で内容を確認した上で、自己点検後の36協定等を適用対象である医師に対してきちんと周知する。

3 既存の産業保健の仕組みの活用

労働安全衛生法に定める衛生委員会や産業医等、既存の産業保健の仕組みが設置されていても十分に活用されていない実態を踏まえ、活用を図ることとし、長時間勤務となっている医師、診療科等ごとに対応方策について個別に議論する。その上で、労働時間短縮の具体的な対策として4・6に掲げる事項等について検討する。

4 タスク・シフティング（業務の移管）の推進

各医療機関においては、医師の業務負担軽減のため、他職種へのタスク・シフティング（業務の移管）を推進する。

- 初療時の予診
- 検査手順の説明や入院の説明
- 薬の説明や服薬の指導
- 静脈採血
- 静脈注射
- 静脈ラインの確保
- 尿道カテーテルの留置（患者の性別を問わない）
- 診断書等の代行入力
- 患者の移動

← 医師事務作業補助者として
何ができるか？

等については、平成19年通知（※）等の趣旨を踏まえ、医療安全に留意しつつ、原則医師以外の職種により分担して実施することで、医師の負担を軽減する。さらに、各医療機関において労働時間が長い医師について、その業務の内容を

5 女性医師等に対する支援

医師が出産・育児等のライフイベントで臨床に従事することやキャリア形成の継続性が阻害されないよう、各医療機関において、短時間勤務等多様で柔軟な働き方を推進するなどきめ細やかな対策を進める。

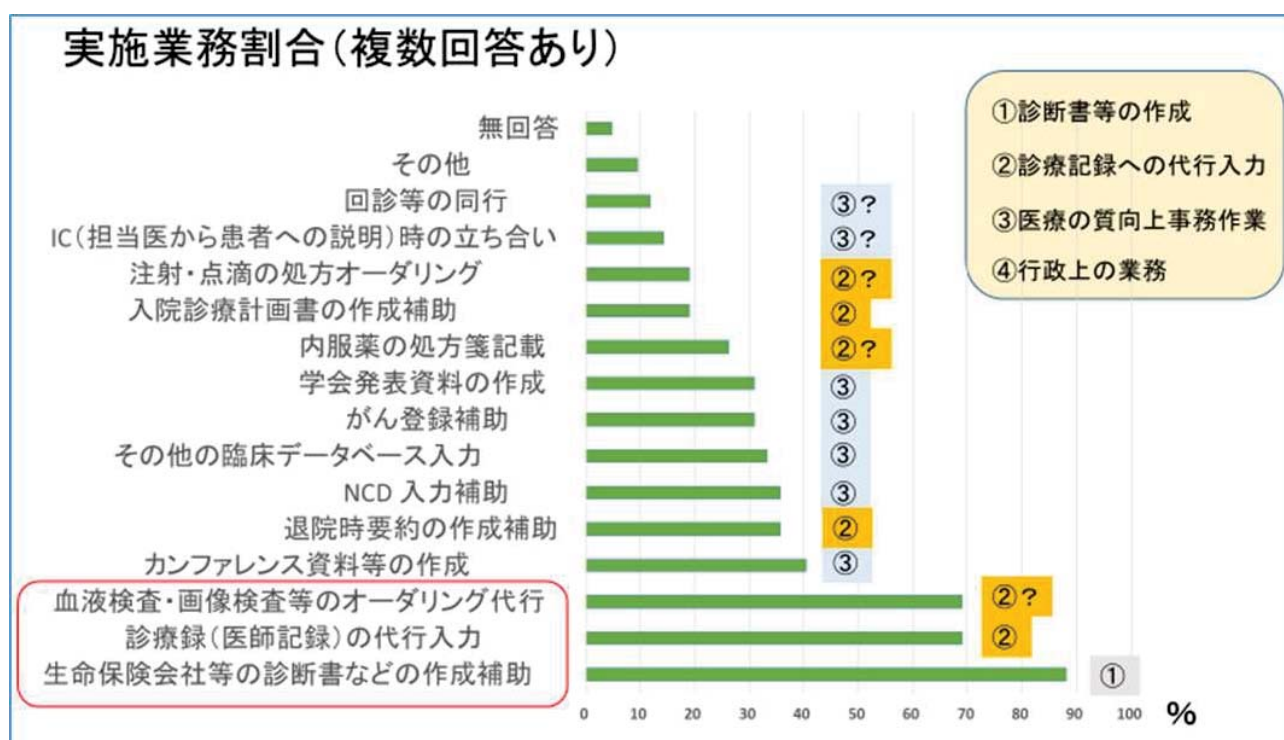
6 医療機関の状況に応じた医師の労働時間短縮に向けた取組

1～5については、勤務医を雇用するすべての医療機関において取り組むことを基本とするが、これ以外に、各医療機関の置かれた状況に応じた医師の労働時間短縮に向けた取組として、

- 勤務時間外に緊急でない患者の病状説明等の対応を行わないこと
- 当直明けの勤務負担の緩和（連続勤務時間数を考慮した退勤時刻の設定）
- 勤務間インターバルや完全休日の設定
- 複数主治医制の導入

など各医療機関・診療科の特性を踏まえた取組を積極的に検討し、導入するよう努める。

静岡県医師事務作業補助者の業務(2016年3月)



平成30年度予算における医師の働き方改革関連の対応(主なもの)

1. 地域医療介護総合確保基金による医療機関に対する運営費・整備費の補助

※地域医療介護総合確保基金を活用して都道府県において事業化すれば、以下のような支援を行うことが可能。

- 勤務環境改善の取組への支援
 - 医療クレーク・看護補助者の配置や業務省力化に資するICTシステムの導入等の取組を支援。
- 病院内保育所の整備・運営への支援
 - 医療従事者の確保のために保育施設を整備・運営する事業について助成。
- 産科・救急・小児等の医師確保支援
 - 産科医、救急医、新生児医療担当医等の確保を図るため、処遇改善に取り組む医療機関を支援。
- 休日・夜間の小児救急医療体制の整備
 - 小児科を標榜する病院が輪番制又は共同利用型により、休日・夜間の小児救急医療体制を整備するために必要な経費を支援。
- 救急・小児周産期の負担軽減への支援
 - 高次医療機関において不安定な状態を脱した患者を搬送元等の医療機関へ救急自動車等で搬送する際の経費を支援。
- 有床診療所における医師等確保支援
 - 有床診療所において休日・夜間に勤務する医師・看護師等の配置を支援。

4. 医療機関も活用できる主な労働関係助成金(例)

- 時間外労働等改善助成金
 - 時間外労働の上限規制等に円滑に対応するため、時間外労働上限設定や勤務間インターバル等のコースごとに、取組の実施に要した経費の一部を成果目標の達成状況に応じて支給。【35.0億円】(※)
- 産業保健関係助成金
 - 労働者数50人未満の事業場がストレスチェックを実施した場合の経費の一部等を助成。【(独)労働者健康安全機構が実施する産業保健活動総合支援事業44.7億円の内数】

2. 診療報酬による対応 ▶次ページ

3. 医療機関に対する人的支援等

- 医療勤務環境改善支援センターの運営
 - 医療勤務環境改善支援センターの運営【地域医療介護総合確保基金】
 - 医療労務管理アドバイザーによる訪問・相談支援等【5.9億円】
- 医療勤務環境改善支援の効率的な実施
 - (新規)医師についての労務管理上の問題等を把握し、支援センターの効果的な助言につなげる調査を実施【0.6億円】
- 医療勤務環境改善支援の質の向上
 - 有識者による支援センター・アドバイザーへの指導・助言、研修教材開発【0.1億円】
- 女性医師支援センターの運営等
 - 就職を希望する女性医師に対する医療機関等の紹介等を行う女性医師支援センターの運営【1.4億円】等
- 地域医療支援センターの運営
 - 医師不足病院への医師の配置等を行うための地域医療支援センターの運営【地域医療介護総合確保基金】
- 医師不足地域の若手医師等キャリア形成支援
 - 医師不足地域へ派遣される若手医師等のキャリア形成や勤務負担軽減を図るための方策のモデル実施・効果検証【7.6億円】
- 産業保健総合支援センターによる支援
 - 事業者、産業医等産業保健スタッフに対する研修の実施、小規模事業場に対する産業保健サービスの提供等【44.7億円】

(※)中小企業(サービス業においては常時使用する労働者100人未満又は資本金5,000万円未満)に該当する医療機関が活用可能。

「静岡県医師の働き方改革を育てる会」 (2014年度から年3-4回・県内3か所) 100-150人



| 開催日 | 時間 | 内容 | 講師 | 人数 |
|------|--|---|----------------------|------|
| 第11回 | 2019.3.5(日) 13:00~16:40 ニッセイ静岡駅前ビル 2階 AB会議室 | ①一般口演「電子カルテ・データベース等」 (1) 産婦人科・医療秘書の取り組み ~電子カルテ化による医療秘書の役割変化~ (2) 医療クレークが院内がん登録に関わっている事例 (3) 浜松赤十字病院におけるNational Clinical Databaseの取組みについて (4) 臨床研究受託時から医療秘書が参加した事例 ②一般口演「業務環境・業務管理」 (1) 当院における医師事務サポート係の現状と課題 (2) 整形外科病院における医師事務作業補助者の取り組み ~業務効率化を目指して~ (3) 当院の医師事務作業補助者(MA)の現状と課題 (4) 公立森町病院における医師事務作業補助者の取り組み ③「医療クレーク」としての電子カルテ~光と影~ 名古屋大学医学部附属病院院長補佐、メディカルITセンター長・病院教授 白鳥 義宗 先生 | 白鳥 義宗 先生 | 117名 |
| 第12回 | 2019.7.9(日) 13:00~16:40 えんてつホール | ①一般口演 (1) 職歴等からみた医師事務サポート係の「職業適性について」 ~院内アンケートの結果から~ (2) 当院における書類作成業務の現状と課題 (3) 当院における医師事務作業の現場~チーム医療の一員となるために~ (4) 浜松医療センターにおける医師事務作業補助者の取り組み 「呼吸器内科クレークと支書クレークの業務」 (5) 感染防止対策室における医療秘書業務の紹介 ②教育講演 「医師事務作業補助体制の戦略 新しい医療空間へのエールと感謝 ~いつも明るく健やかに~」 高岡惣志会病院 園部 節・スポーツ整形外科部長 今田 光一 先生 | 今田 光一 先生 | 120名 |
| 第13回 | 2019.10.8(日) 13:00~16:45 ニッセイ静岡駅前ビル A・B会議室 | ①「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン(Ver.3.0)」の解説 ~「改正個人情報保護法」と絡めて~ ②「人生100歳時代の設計図を考える」 浜松医科大学附属病院 医療福祉支援センター センター長 小林 利彦 先生 ③「医療クレークが知っておきたい病理診断学の知識」 宮崎県立自衛病院 臨床検査科・病理診断科・医療連携科・感染管理科 部長 木佐貫 篤 先生 | 小林 利彦 先生 木佐貫 篤 先生 | 127名 |
| 第14回 | 2020.3.4(日) 13:00~16:30 プラザ ヴェルデ 301、302会議室 | ①「医師の働き方改革に関する検討」内容紹介~ヘッドスティングリングを中心して~ 浜松医科大学附属病院 医療福祉支援センター センター長 小林 利彦 先生 ②一般口演 (1) 電子カルテ導入後の内科外における問題点と改善点 (2) 当院における診断書作成の取り組みについて (3) 医療機関の正しい接遇 (4) 医師におけるWebサイトを利用した情報伝達の取り組み ~院内ポータルサイトの運用から~ ③「医療クレークが知っておきたい『医療マネジメント』ツール」 ~DPC・電子カルテ・パスをどう活用するか~ 東京医療保健大学 医療保健学部 医療情報学科 准教授 藤戸 俊馬 先生 | 小林 利彦 先生 藤戸 俊馬 先生 | 97名 |



医療クラークと医療事務

医療の高度化に伴い、医療関連の事務職も高度化かつ複雑化しています。「医療クラーク」と「医療事務」、名称は似ていますが仕事内容は異なります。「日本医師会医療秘書認定試験」は、そのどちらにも対応し、医療関連施設で必要とされるスキルを証明するために役立つ資格です。

医療クラーク (医師事務作業補助者)

総合病院や医院・クリニックなどの医療機関において、院長先生を始めとする医師の業務サポートを行います。例えば、スケジュール管理・電話応対・書類管理・学会資料作成の手伝いです。日常の診療だけでなく、学会での発表における準備等にも関わります。

医療事務の知識はもちろん、医師が取り扱う書類には医学関連用語が多く含まれていますので、医療に関連した法令知識なども必要となります。

医師の側について電子カルテの代行入力や診断書等の文書作成などを行うことで、多忙な医師の負担軽減に努めます。施設によって、「医療秘書」、「医療クラーク」、「医師事務作業補助者」など呼び名が異なります。



医療クラーク (医師事務作業補助者)

総合病院や医院・クリニックなどの医療機関において、院長先生を始めとする医師の業務サポートを行います。例えば、スケジュール管理・電話応対・書類管理・学会資料作成の手伝いです。日常の診療だけでなく、学会での発表における準備等にも関わります。

医療事務の知識はもちろん、医師が取り扱う書類には医学関連用語が多く含まれていますので、医療に関連した法令知識なども必要となります。

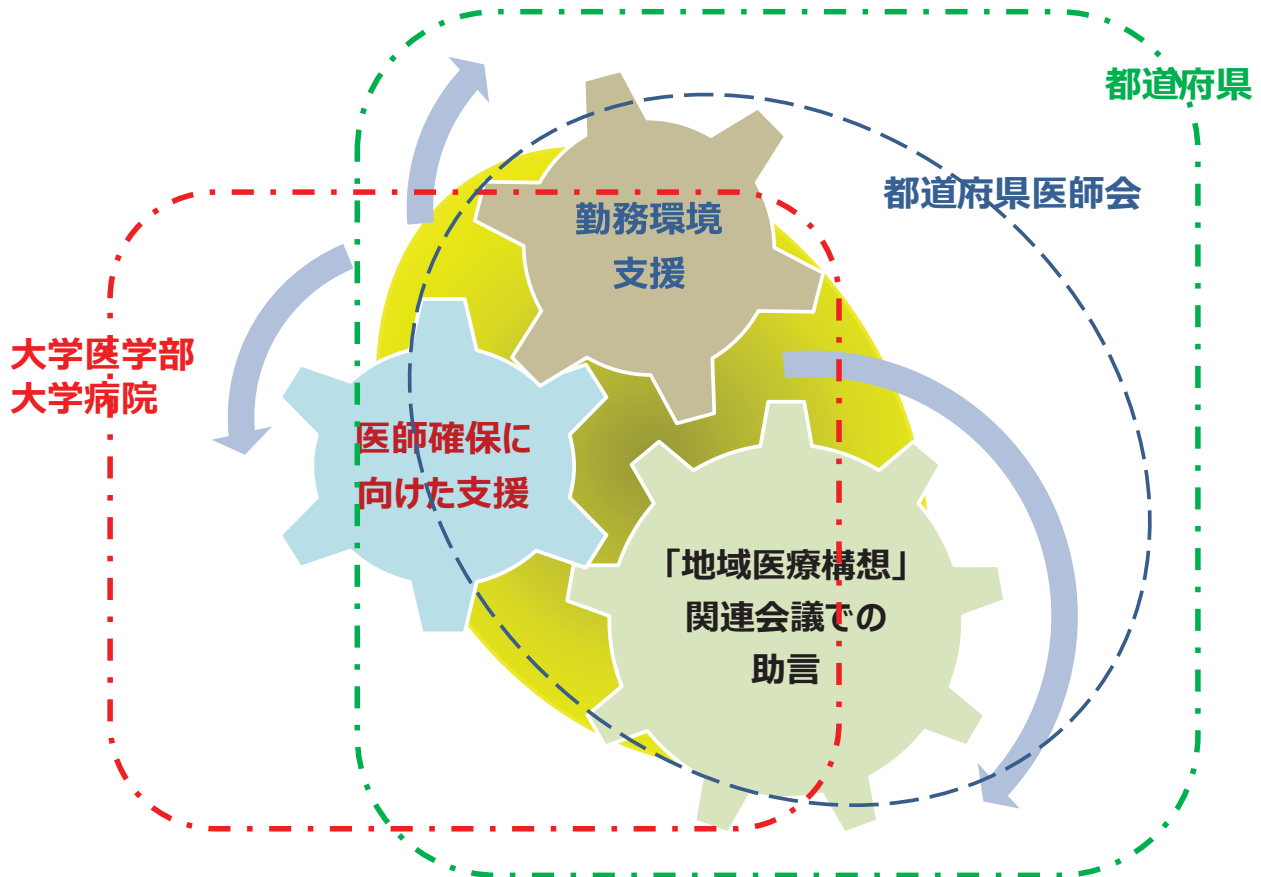
医師の側について電子カルテの代行入力や診断書等の文書作成などを行うことで、多忙な医師の負担軽減に努めます。施設によって、「医療秘書」、「医療クラーク」、「医師事務作業補助者」など呼び名が異なります。

医療事務

病院や医院・クリニックなどの医療機関にて、患者さまが来院したときに、受付から会計まで精算する事務の仕事は医療事務といえます。医師が記入したカルテを元に、診療点数をコンピュータに入力したり、患者さまが待診する保険証の負担割合に基づいて、診療報酬を計算しつづける仕事です。



都道府県「地域医療(構想)アドバイザー」の役割



初期臨床研修医を対象とした研修会 『屋根瓦塾 in Shizuoka 2017』の開催について

平成30年2月25日(日)13時より、ホテルセンチュリー静岡（静岡市）を対象とした研修会『屋根瓦塾 in Shizuoka 2017』を開催した。

本研修会は、本県の医師確保対策、勤務医対策の一環として、2017年度で開催するもので、当日は県内の初期研修医24人が参加した。

初めに、篠原県医師会会長より開会挨拶が行われた後、司会進行役が行われた。

続いて、浜松医科大学医学部臨床医学教育学講座 五十嵐 寛特任よりオリエンテーション（他己紹介等）のアイスブレイク（同）

VC挿入に

引き続き、

期研修医、

ホテル）挿入

ロールプレ

チームに分

研修終了

書が授与さ

また、研

支援をいた



アイスブレイクの様子



アイスブレイク「他己紹介」の様子



ミニレクチャー：小林先生



Aブース「CVC挿入」



オリエンテーション：五十嵐先生

**若い医師を大事に育てる
「研修医は宝」**